



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002 東京都文京区小石川 1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaikyoukai.com

http://yuaikyoukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

第九回臨時評議員会・第三十五回定例理事会開催

平成二十七年 事業計画・事業予算決まる

友愛国際写真コンクール・ミャンマープロジェクト等 平成二十六年 事業を踏襲・新規事業も加わる

三月二十六日(木)友愛サロンに於いて、第九回臨時評議員会及び第三十五回定例理事会が開催された。評議員会では、平成二十七年事業計画及び平成二十七年事業予算が協議され、全会一致で承認された。平成二十七年は、二十六年に開始した新たな事業を踏襲して行うと共に、新たに北京理工大学に於ける「友愛講義」プロジェクトも加わった。また、二十七年に第二十六回開催を迎える「友愛ドイツ歌曲コンクール」は、この回を以て主催実施を終えることとし、一般財団法人ドイツ歌曲普及協会に主催を委ねることとなった。

三月二十六日(木)友愛サロンに於いて、第九回臨時評議員会及び第三十五回定例理事会が開催された。評議員会では、平成二十七年事業計画及び平成二十七年事業予算が協議され、全会一致で承認された。平成二十七年は、二十六年に開始した新たな事業を踏襲して行うと共に、新たに北京理工大学に於ける「友愛講義」プロジェクトも加わった。また、二十七年に第二十六回開催を迎える「友愛ドイツ歌曲コンクール」は、この回を以て主催実施を終えることとし、一般財団法人ドイツ歌曲普及協会に主催を委ねることとなった。

う。広く一般に友愛山荘を開放することによって、相互尊重・相互理解・相互扶助の友愛社会の実現を図ることにより、世界平和に貢献する。

三月二十六日(木)友愛サロンに於いて、第九回臨時評議員会及び第三十五回定例理事会が開催された。評議員会では、平成二十七年事業計画及び平成二十七年事業予算が協議され、全会一致で承認された。平成二十七年は、二十六年に開始した新たな事業を踏襲して行うと共に、新たに北京理工大学に於ける「友愛講義」プロジェクトも加わった。また、二十七年に第二十六回開催を迎える「友愛ドイツ歌曲コンクール」は、この回を以て主催実施を終えることとし、一般財団法人ドイツ歌曲普及協会に主催を委ねることとなった。

う。広く一般に友愛山荘を開放することによって、相互尊重・相互理解・相互扶助の友愛社会の実現を図ることにより、世界平和に貢献する。

う。広く一般に友愛山荘を開放することによって、相互尊重・相互理解・相互扶助の友愛社会の実現を図ることにより、世界平和に貢献する。

う。広く一般に友愛山荘を開放することによって、相互尊重・相互理解・相互扶助の友愛社会の実現を図ることにより、世界平和に貢献する。



挨拶に立つ井上和子評議員長。様々な事業をつぶさに協議した。



鳩山一郎先生の書に発見がありまして、友愛の理念を語る鳩山由紀夫理事長。



評議員会。理事、監事も出席し、活発な議論が交わされた。

を中心に、日本国内での研修を重ねる。受入2/OJAB派遣員受入事業 *OJABの推薦を受けた者を受入、国内の各地の視察を実施する。一郎先生の遺志を受け継ぎ、広島にて平和、核軍縮の講義を受けるなどの活動をする。

交流1/二〇一五年友愛国際写真コンクールの開催 *インターネットを通じて、世界各国から写真を募集する。テーマは、友愛、平和、自然、環境保護など。交流2/北京理工大学等に於ける「友愛」講演会 *北京理工大学日本語学部学生を対象に「友愛」についての講演会を実施する。友愛社会発展のための活動とする。

交流3/ベトナム枯葉剤被害の子供たちに車椅子を贈る事業 *ベトナム枯葉剤被害の子供たちに車椅子を贈り、日常生活が送れる様になり、自立できる様支援する。それが社会進出、社会貢献に繋がり、ひいては友愛社会を目指す人材育成の育成となることを目的とする。その他事業の部

④ 他団体への協力 *本協会と志を同じくする団体を支援協力する。以下の団体に対する協力内容については、対象団体と協議し柔軟に行う。 ①鳩山会館 ②鳩山友愛塾 ③一般財団法人人間塾 ④一般財団法人 東アジア共同体研究所 ⑤核兵器廃絶・平和建設国民会議 KAKKIN ⑥一般財団法人尾崎行雄記念財団 ⑦公益財団法人日本補助犬協会 ⑧公益社団法人日本けん玉協会 ⑨一般財団法人ドイツ歌曲普及協会

⑩ 二十七年事業計画及び事業予算は、日本友愛協会HPにてご覧になれます。PDF併載しています。

第二十五回友愛ドイツ歌曲コンクールで一位を受賞した照屋篤紀です。このような歴史あるコンクールで受賞をすることが出来て大変嬉しく思っています。この度、一位の副賞で二〇一五年六月二十三日にウィーンのアントニオ・ヴァイヴァルディホールで催されるコンサートに出演することになりました。これは、日本友愛協会と友好団体でもありますドイツ勤労青年連盟(OJAB)の協力のもと、開催されるもので、友愛とOJABの友好五〇周年事業として開催されるとのことでした。私自身、国外で歌うのは初めてで、さらにこのような大事な舞台をつとめさせていただくのかと思うと、とても緊張していますが、



照屋篤紀

ウィーンへの意気込み!

照屋篤紀

反面ヨーロッパで歌うことが、私の夢でもあったので、緊張の倍くらい非常にワクワクしています。音楽の都ウィーンの雰囲気を楽しみながら、自分らしい演奏が出来るように準備をしている段階です。今年の春、武蔵野音楽大学大学院を修了し、歌手としての一歩を踏み始めたばかりで、まだまだ未熟ではございますが、このような機会を与えてくださった、日本友愛協会に心から感謝申し上げます。

友愛時評 ▼GWの連休中にオガール紫波を訪れた。岩手県紫波町が取り進む都市整備事業で、官民連携方式で成果を挙げている好例として全国的に注目されている場所である。▼晴天に恵まれ、中庭の広場では地元グループが賑やかにパーベキューをしていた。図書館と産直施設や民間テナントが入る中核施設のオガールプラザを歩いていると、リゾート地のアウトレットモールにいるかのような錯覚すら覚える。▼隣接する敷地には岩手県フットボールセンターがある。県内初のサッカー協会公認グラウンドということも多く、の公式戦が行われ、それが集客に大きく寄与している。連休明けには移転してきた町役場庁舎が業務を始めるそう、分譲中の住宅地には地元の木を使った「紫波型エコハウス」が建ち始めている。地元方言で「成長」を意味する「おがる」に由来するオガールは、農村と都市が共生する「住みたくなる」街づくりを目指すプロジェクトだそうだが、その部には稀な活況ぶりは確かに若い子育て世代をも惹きつける魅力がある。▼「地方消滅」すら現実的な危惧となってきた人口減少社会の中、日本各地で様々な町おこしの取り組みが模索され、自治体間のアイデア競争の様相を呈している。オガールの場合には県都盛岡市のベッドタウンという位置が好条件となっている。他方で、条件に恵まれない自治体関係者の本音には諦念も見られるそう。▼この地の一〇年後、二〇年後はどんな風景だろうか。そんな想像をしながら長男の所属するクラブチームの試合を観戦していた。(ヒゲ)

クリミア訪問記

日本友愛協会理事長 鳩山由紀夫

なぜクリミアに行ったのか

一躍クリミアが日本人に有名になった。それまで誰も気にも留めていなかったのに、私がクリミアに行ったものだから、突然、騒ぎ始めた。

それにしても、私がクリミアに行くと言うことが知られてからの、私に対する批判の嵐は常軌を逸していた。「宇宙人だ」、「日本人ではない」、「バスポートを取り上げる」、果ては「ハニートラップにかかった」。これらの方々は、ウクライナ問題をまるで知らないか、アメリカ側からの情報をそのまま鵜呑みにする政府と多くの大手メディアの報道を、そのまま信じている人々に違いない。

なぜ私がクリミアに行ったのか。まさにそれは、西側からの情報と真実が余りにも乖離していたからだ。それで日本に損害がなければ、それでも構わなかったかもしれないが、日本の国益をそれによって損なうのではないかと大変に恐れた。それで、事実をこの目で確かめるために、百聞は一見に如かずと、クリミア行きを決めたのだ。私より池上彰さんのほうがよほど先に見て来られていたのに、なぜ私だけに批判が集中したのだろうか。

昨年三月十六日にクリミアが住民投票を行い、ウクライナから独立しロシアへの編入を決めた途端に、アメリカを中心に欧米諸国は「ロシアの侵略だ」として、ロシアに経済制裁を科した。日本もそれに倣い軽微ではあるが制裁を科した。何でもアメリカに追随するのだ。

結果として、プーチン大統領の来日は延期され、実のある首脳会談を開くことができなくなり、北方領土問題を正面から扱うことが出来なくなった。日本の対露外交で最も重要なテーマは北方領土問題である。そして私は、親日的で右寄りのプーチン大統領の時に解決せねば、永遠に解決できなくなるのではないかと危惧をしている。

昨年秋、ナルイシユキン国家院議長を訪れたときに、「日本の政治家の間違いで、制裁が科されたことは誠に遺憾である」と、珍しく強い口調で話された。折角、プーチン―安倍の良好だった関係が、「間違い」で台無しになってしまい、北方領土問題が遠のいてしまうのか、「制裁」は本当に必要なものなのか、実際にクリミアに行かなければ分からない、そう判断したのである。

クリミアの歴史

クリミアは歴史的にさまざまな変遷を遂げている

が、北方領土になぞらえて申せば、「ロシアの固有の領土」である。紀元前はギリシアの植民都市であったり、東ローマ帝国の支配下に入ったり、クリミア・ハン国が支配したりしたが、一七八三年に露土戦争の結果、ロシアに併合された。

一九五四年にフルシチョフ書記長がソ連邦の中で、友好の証としてクリミアをロシア共和国からウクライナ共和国へ割譲した。そして一九九一年にソ連が崩壊する直前にウクライナが独立を宣言して、クリミアもウクライナの一部とされた。

実は、その当時にもクリミアで住民投票が行われ、九三%の住民がロシアへの帰属を希望したが、その時にはロシア指導部に無視されて、クリミア自治共和国としてウクライナの一部に留まったのである。そして二十三年間、クリミアはウクライナの中で人権など虐げられてきたのだ。

そして二〇一四年二月、ソチで冬季オリンピックが行われ、プーチン大統領が手を出せない時を狙って、アメリカが親露派と見られていたウクライナのヤヌコビッチ政権を打倒するために画策した。ヤヌコビッチ大統領がE

U加盟の前提としてのウクライナEU貿易協定を見送ると決定したことが、数百名の小さな抗議集会を生んだが、それが瞬く間に多くの死者が出る暴動となり、大統領辞任に至った陰にネオコン集団の扇動があった。

この暴動では多くの死者が市民のデモ隊と治安部隊の双方に出て、非難を浴びたヤヌコビッチ政権が倒れたが、実は双方は同じコンが指導して狙撃したのもと言われている。このような事実は日本ではまず報道されていない。

新しい親欧米派の政権は、ロシア語を公用語とすることや、セヴァストポリのロシアの黒海艦隊の駐留を無効にするなどの意思を持つていたため、ロシア人の多いクリミアとしては、これ以上人権が守られなくなることに危惧を抱き、市民が二度目の住民投票を行ったのである。この住民投票を阻止しようとウクライナ軍が攻めてこようとした。それをロシア軍が防いだ事実はあるようだが、投票自体は順調に行われ、問題ないことが確認されている。そして九〇%以上の投票者がロシアへの編入を望んだのである。ロシアの兵士が民間人に圧力をかけて

いたというのは全くの嘘であることが言葉だけでなく、実際に行ってみて良くわかった。

ノフ・クリミア共和国首長、コンスタンティノフ議長などの指導者にお目にかかったが、みなさん明るく、逞しく、自信に満ちていた。経済制裁のために暫くは苦しい環境も予測しながら、むしろ産業を興すチャンスであると希望に溢れていた。この一年の政権運営が非常に民主的で、少数民族に対する人権の配慮も行き届いており、クリミア・タタール人でさえ、今では九九%の人がロシア人のバスポートを所有していると聞いた。

私はクリミア連邦大学とモスクワ大学セヴァストポリ分校の二校で講演を行うことが出来た。そこでは友愛の理念の尊さと、その理念の実践としての東アジア共同体の必要性を説いたが、学生たちは実に真面目で真剣に聴いてくれた。活発な意見交換ができた。彼らは生き生きとしていたが、やはりこの一年を喜んでいるのが表情に見て取れた。それはけっしてロシア

に蹂躪され侵略された中で作られた笑顔ではなく、自由と平和を謳歌することができるようになったことが喜んでいいる幸せな顔であった。子どもたちを見れば良くわかるものだ。

クリミアは風光明媚なところである。とくに第二次世界大戦後の処理を決めたヤルタ会談が行われたクリミア半島の南端に近いヤルタ周辺は美しく、リヴァデア宮殿ではルースベルト、スターリン、チャーチルの蠅人形にお目にかかった。スターリンが真ん中に偉そうに座っていた。黒海で獲れた魚介類は日本人の口には合うに違いない。また、セヴァストポリの辺りにはケルソネソスのギリシア時代の遺構が発掘されており、東ローマ帝国時代まで栄えた町の面影を窺い知ることが出来、古代史の好きな方には必見である。残念なことには経済制裁のため景勝地を訪れる者が減少しているのは、お互いに勿体ないことである。リヴァ

ディア宮殿ではヤルタに住む一人の日本人女性にお会いしたが、郵便物や荷物が届かないと、制裁のことをとても嘆いておられた。こんなところにも、日本の制裁の悲劇があるのだった。

自分の目と頭で判断する

私はクリミアを訪れて、住民のみならずが普通に平和に暮らしていることを十分に感じ取れた。旅行中に兵士に出会うこともなかった。自分たちの自由意思でロシアに編入をしたことを喜び、現在の状況に自信を持っていくこともわかった。そして、日本政府が、アメリカのお付き合いで、したくもない経済制裁を続けていることに対して、本当に必要なことか、自分の目と頭で判断してもらいたいと切に願う。

モスクワに寄り、ナルイシユキン議長とお会いしたが、「日本の有力な政治家と意見交換したが、『経済制裁は合法的でなく、恥ずかしい』という反応だった」と述べられた。また、私のクリミア訪問について、「日ロ関係発展のために行動されたことに、歴史的な意義を感じた」とも話され、プーチン大統領も感謝していると付け加えて下さった。何事もアメリカが正しく、ロシアが間違っているとの狭い見でなく、日本政府やメディアが広い世界観と大きな心を持って、正しい判断を行い、プーチン・安倍会談が円滑に行われ、領土問題が解決に向けて再び動き始めることを期待する。それが宇宙人としてのたつての望みである。

ベラヴェンツェフ・クリミア連邦管区大統領全権代表等と大統領府にて (写真提供:池田剛久氏)



モスクワ大学セヴァストポリ分校では、日の丸で歓迎された。(写真提供:池田剛久氏)



HATOYAMAは大人気。気軽にサインに応じる。クリミア大学にて (写真提供:池田剛久氏)



クリミア訪問について、

浄空法師様友愛山荘へ

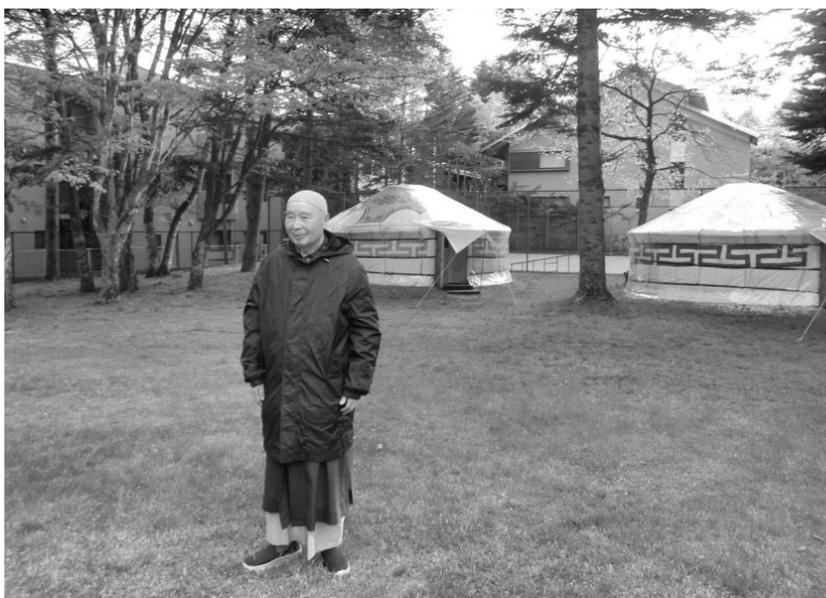
緑あふれるなか講話会を開催

穏やかな笑顔で人々を魅了 スタッフ一同心を込めておもてなし

浄空法師様が山荘へ
五月六日(水)友愛山荘に浄空法師様をお迎えすることになった。

浄空法師様は、中国の著名な高僧で、友愛山荘に設置し、好評を博しているパオをご寄贈くださった方だ。

そもそもは鳩山由紀夫理事長幸夫人とのご縁から始まり、今ではご夫妻が敬愛する師であり父とも仰ぐ思いで親交を重ねている。鳩山由紀夫理事長は、戴



パオを背に緑の芝生で。パオの内部も詳細に見学され、学生達がパオの中でミーティングを行っていることをお伝えすると、とても喜んでおられた

いたパオが、緑輝く友愛山荘で、大いに活躍しているところをご覧いただくために法師様を山荘にお招きした。加えてご夫妻とご縁から、講話をお聞かせいただけることと、これは大変なことだ。鳩山理事長も前日には山荘に行き、打ち合わせ、確認をされるという熱の入れ様である。

できたのだが、頭を悩ませたのはお食事である。法師様は、完全菜食であることから、出汁に鰹節を使うことも許されない。折角日本にいらしたのだから、出汁の効いた日本料理を提供したいところだ。額を寄せ合い苦心惨憺、出汁はすべて昆布出汁とし、それに合う献立を考えた。

野菜、豆腐などを駆使して料理を作り、基本は日本料理、盛り付けは中国風に、お粥も二種類と工夫を凝らした。植林訪中の際、ご馳走になった現地の中国料理の印象で、何とか形が整った。植林の思わぬ効用が発揮された。

昼食から始まったお食事は、お帰りになる翌日の昼食まで、すべて美味しいと召し上がっていただき、スタッフ一同胸をなでおろし、思わずヤッタと満面の笑みが浮かんだ。

十五時三十分からの友愛ホールでの講話には、遠方から駆け付けた方、近隣の方々を含めて三十人以上が集い、法師様のお話を傾聴した。理事長の計らいで、質疑応答の時間を設けていただき、直接法師様に思い



浄空法師様の講話の前に、鳩山由紀夫理事長が挨拶。法師様とご縁、集まってくださった方々への御礼を述べた。私も今日の講話を楽しみにしておりますと



友愛ホールで法師様の講話を聞く会が開催された。遠方からの方、近隣の方々、皆興味津々でお話に聞き入った。質問も多く、一つ一つに法師様は丁寧にお答えになられた



お土産の陶器の鉢。中の魚(鯉)が水を張ると正に泳いでいるかの如く見える

の丈を伝える方が続出、素晴らしい講話会となった。庭のパオをご覧になり、一つ一つ中の様子を確認された法師様からは、「良く使っていたいだいてますね、うれしいです」とお言葉をいただいた。



工夫を凝らした甲斐あって、浄空法師様は、全て美味しいと



法師様からのお土産は沢山あった。その一つ魚の泳ぐ鉢(写真上)



川手正一郎常務理事も駆けつけ、法師様と熱心に話を



山荘スタッフの努力の結晶。特性精進料理の数々



パオとその内部を見学される浄空法師様。終始穏やかな笑顔で



山荘ロビーで「友愛」を手にくつろがれる法師様一行

友愛 ほんだな

井上綾子著『恐竜ギフト』

東アジア協同体研究所編『なぜ、いま東アジア共同体なのか』



絶賛! 鈴木光司氏
第24回日本ファンタジーノベル大賞最終候補作
ファンタジーの可能性を広げた、すがすがしい物語に引き込まれた。新たな作家の登場に期待する。 牧野出版

*本屋さんでご注文ください

著者：井上綾子
発行：牧野出版
装丁：四六判 二四〇頁
上製本
価格：一六〇〇円(税別)

新しい本を手にしたときの楽しみは三つある。一つは全体を包んでいる新しい書物の雰囲気。きちっと角の立った小口、開いた時の印刷物のおいし、しおりの紐がたたまれている風情。二つ目は、その装丁。紙質を含めた表紙の意匠、文字の形、扉のデザイン、各ページのレイアウト。そして勿論三つ目は「作品」。面白くてドンドン読み進んでしまふ、読み進んでしまいたい、でも読み終わるのが勿体なくてと矛盾する思いとのせめぎあい、それもまた読書の楽しみである。

構成の緻密さに「やられた」と思うことが度々。何より作者の凛とした価値観が、はっきりと綴られていて、潔く心地よい。恐竜が語る「人間だつて動物の一種だ。なのに」という言葉に、鳩山一郎先生の著書『自由と人生』の一文にある意が重なる。著者が一郎先生の曾孫にあたりと知れば、遺伝子的に「友愛」が根源にあるのではと思えてくる。

「なぜ? いま? 東アジア共同体なのか?」まさにその答えが、書かれている書である。更に言えば、東アジア共同体研究所・鳩山友紀夫理事長の心の底からの思いが、友愛の理念と共に切々と述べられている。本文二七八ページの内、約三分の一を割いて、鳩山友紀夫理事長の「東アジア共同体構想」が、経済、金融、教育、文化、エネルギー環境、安全保障など具体的な分野別共同体として解説されている。また、東アジア共同体構想にいたるまでの、「友愛」に由来する思いが、祖父鳩山一郎先生の思い出を交え、多方面から、話しかけるようなわかりやすさで綴られている。

自身が総理大臣として果たせなかったことも含め、真摯に是非の視線で吐露している。その後、自由な立場で出会った各国の要人の言から、自らの理念に確信を抱いていく過程も読み取れて興味深い。

何かを判断するとき、メディアに頼らない、真実を知る事の大切さも、この書は伝えてくれている。一般財団法人東アジア共同体を設立するに至った経緯は、本書に書かれている思いを知ると、大いに頷ける。同時に頑張つて欲しい、実現して欲しいとの思いに駆られる。

重・相互理解・相互扶助」の友愛三原則を現代の状況を基に考察と解説をまとめているのは、書き手としても見事だと思える。時代を超えて、あるいは今だからこそ「友愛」を浸透させたい、目指すは「友愛」によって築かれる平和な世界であることを、本書は強く訴えている。

序章は、筑波大学名誉教授・国際アジア共同体学会長の進藤榮一氏が「二十一世紀は『アジア力』の世紀」と題して意見を述べている。

第二章は、ジャーナリストの高野孟氏が、第三章は、元衆議院議員の中島政希氏が、第四章は、沖縄県那覇市生まれの島袋純琉球大学教授が担当し、それぞれの観点から意見を展開している。様々な多様性を有するアジアを一つにしていく、そのなかにあつて、それぞれのアイデンティティを大切に、各人各様の言葉で、相互尊重、相互理解が綴られている。

国際環境の大変動に日本はいかなる構想力をもって対応すべきか? 東アジア共同体構想の推進こそが未来を拓く

東アジア共同体研究所
鳩山友紀夫/進藤榮一
高野孟/中島政希/島袋純
なぜいま東アジア共同体なのか
国際環境の大変動に日本はいかなる構想力をもって対応すべきか? 東アジア共同体構想の推進こそが未来を拓く

*ご希望の方は事務局へお問い合わせください

友愛山荘本館に「ユニバーサルデザイントイレ」が完備されました。友愛ホールには既に取り入れられていましたが、本館には無く、ご要望も多かったことから設置したものです。「ゆつたりトイレ」と名付け、男女兼用、どなたでもご利用可能です。手摺り(縦型と横型及び稼働式サイド)も取り付け、車椅子でも方向転換できる広さがあります。



友愛山荘にユニバーサルデザイントイレ完成しました

時事川柳 服部迪夫 作
「時事川柳研究会」会長
——開幕
プロ野球が祝う公式戦
——前評判通り
甲子園金の卵がフカをする
——一〇〇メートル
錦織と羽生の隙間に桐生君
——真実はある虚と実
報道の先端にある虚と実
——リニア
六〇三その先にある夢の旅
——春節という嵐
爆買いが去って日本に春が来る
——北陸新幹線開業
北陸に春を吹き込む時刻表
お詫び 第五三五号は、曆・掲載記事の関係でお届けが遅れましたことお詫び申し上げます。 編集部

機関紙『友愛』原稿募集
皆様のご投稿をお待ちしております。内容は、ポランティス活動の報告、地域の活動、季節の『友愛』結構です。詳しくは事務局までお問い合わせください。特設ページは、いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いいたします。領：手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも可。写：紙焼き(カラー・白黒)・デジカメデータどちらでも。

◆本紙の記事にもありますが、五月六日、七日と友愛山荘に浄空法師様をお迎えしました。法師様は菜食のことで、山荘スタッフと智恵を絞り、様々な野菜、様々な調理法を駆使して何とか献立をこなしました。せっかくなので日本にいらしたのだから、基本は日本料理、盛り付けは中国風と和中華の面白いものが出来上がりました。お相伴に預かり、九二日、精進料理のみ口にしていましたら、体重減! 実際に身体が軽くなった気がします。驚くやら嬉しいやら、恐るべし日本料理の実力です。気を良くしてそれからも続けていますが、果たして一ヶ月続くか。希望、期待、決意、努力、うーん難しい。(も)

◆「友愛」がスタートして六十二年。日比谷公会堂での結成式の光景は強く胸に焼きついて居ります。入会した翌日、溜池の松岡ビル事務所にいきましたら、連休中に事務所を音羽に引っ越すので手伝えというご下命でした。中村小太郎君(画家・詩人『愛の奇跡』作家)と一緒に小さなトラックの荷台に乗り、机や椅子、書類棚とともに青葉の音羽御殿に到着。掃除や整頓をしたことが今でも懐かしく忘れられません。それから六十二年中村君も三月末逝きました。芭蕉の句をいただいてさまざまなこと思い出す若葉(桜)かな (K)

